

米子城跡 5

1995. 3

(財)米子市教育文化事業団

例 言

- 1 本書は、平成6年度（1994年度）において、財団法人米子市教育文化事業団が実施した米子城跡第5遺跡（米子市西町36-1番地及び久米町98-1番地）に関する埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、鳥取大学医学部附属病院の排水モニター、防火水槽、共同溝工事に伴う緊急発掘調査である。
- 3 本書に使用した方位は、すべて磁北を示す。
- 4 発掘調査の実施体制は下記のとおりである。
 - 調査委託 鳥取大学
 - 調査主体 財団法人米子市教育文化事業団
 - 調査担当 財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
 - 調査協力 米子市教育委員会
- 5 調査によって出土した遺物、作成した記録、写真などの資料は、米子市教育委員会で保管している。
- 6 本書の執筆、編集は財団法人米子市教育文化事業団がおこなった。

目 次

| | |
|----------|---|
| 例 言 | 1 |
| 目 次 | 1 |
| I はじめに | 2 |
| 1 調査の概要 | 2 |
| 2 位置と環境 | 2 |
| II 調査の結果 | 3 |
| 1 調査の結果 | 3 |
| 2 出土遺物 | 6 |
| III まとめ | 6 |
| 写真図版 | 7 |

I はじめに

1 調査の概要

米子城跡第5遺跡は、米子市西町36-1番地及び久米町98-1番地に所在し、今回の調査は、鳥取大学医学部附属病院の排水モニター、防火水槽、共同溝工事に伴う事前の調査である。

鳥取大学医学部附属病院の新館建築に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、1988年の久米第1遺跡、1992年の米子城跡第1遺跡が実施されている。今回の調査地は、排水モニター及び防火水槽工事予定地（西町36-1番地）が1992年米子城跡第1遺跡調査地に隣接し、また、共同溝工事予定地（久米町98-1番地）が1988年の久米第1遺跡調査時に部分調査区域として残された箇所にあたる。近世米子城関係遺跡をはじめとして、縄文時代から江戸時代にいたる遺跡の存在が十分考えられた。

そのため、米子市教育委員会と鳥取大学の協議の結果、工事に先立つ事前の発掘調査の実施を決定し、財団法人米子市教育文化事業団が鳥取大学より発掘調査の委託を受け発掘調査を実施した。調査対象面積は、253㎡である。調査は、現地調査が平成6年11月～12月、それ以降、出土遺物の整理、報告書作成などをおこなった。

2 位置と環境

調査地は、近世米子城の内膳丸の麓にあたり、付近では、近年の発掘調査などによって、縄文時代以降の各時代の遺構、遺物が発見されている。

縄文時代には、断続的で小規模ではあるが漁労を中心とした生活が営まれていたことを物語る遺物が確認され、弥生時代から古墳時代にかけては、内湾性の低湿地を利用した半農半漁的な集落の形成が窺われる。湊山には、古墳の存在も考えられている。奈良時代以降も断続的ながら集落の存在が推定されている。米子城の築城は1590年代といわれているが、それより以前の大規模な埋立工事の実施が明らかになっており、築城以前から基礎的な整備が行われていたことが確認されている。明治期以降様々な建物などが建てられ現在に至っている。



II 調査の結果

1 調査の結果

調査は、表土を重機によって除去し順次遺構、遺物の検出につとめた。

排水モニター、防火水槽工事予定地については、表土を除去した段階でかなりの攪乱がみられたため、重機による掘削をすすめた。しかし、江戸時代の遺跡が存在すると推定されていた部分は、下水管敷設などによってすべて消滅していた。さらに、江戸時代以前についても、地下3mまで調査をおこなったが砂の堆積のみであり、遺構、遺物の確認はできなかった。

共同溝工事予定地は、アスファルトなどを除去した後、掘り下げを進めた結果、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、土錘、黒曜石、石礫などを検出した。遺構は確認できていない。地形は、北東に向かって傾斜しており、礫層、角石が堆積し、崖錘性のものと思われる様相を呈している。この中に、縄文土器、弥生土器が散在している。

遺物は、地形の傾斜にそって分布しており、⑤層⑥層から縄文土器、弥生土器、黒曜石、③層④層から土師器が出土している。

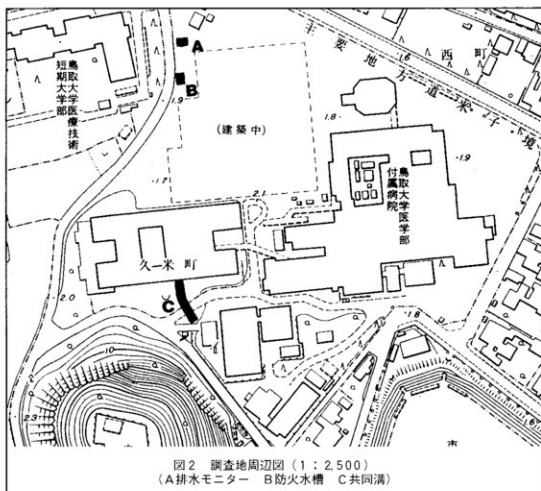


図2 調査地周辺図 (1:2,500)
(A排水モニター B防火水槽 C共同溝)

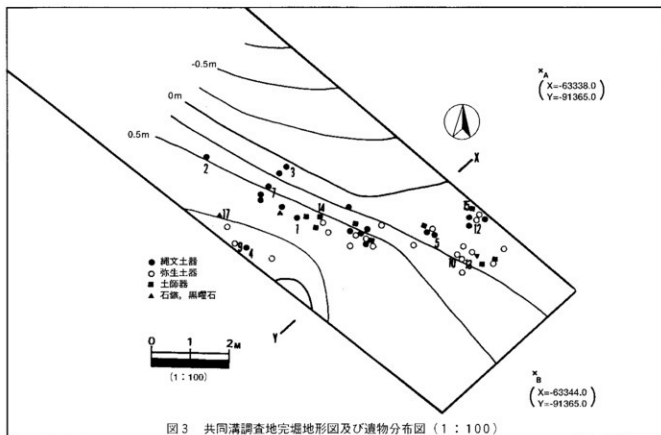


図3 共同調査地完壙地形図及び遺物分布図 (1:100)

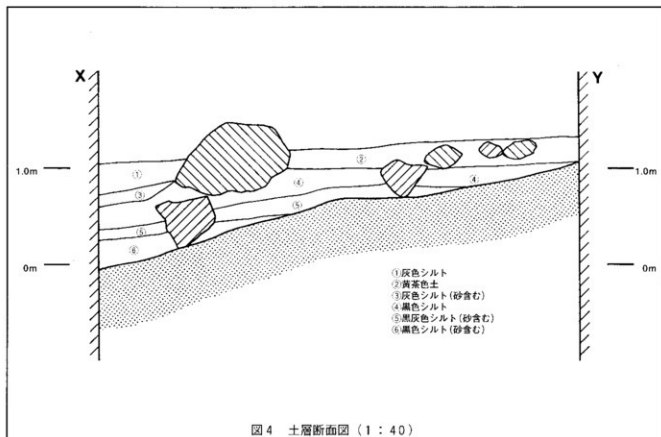


図4 土層断面図 (1:40)

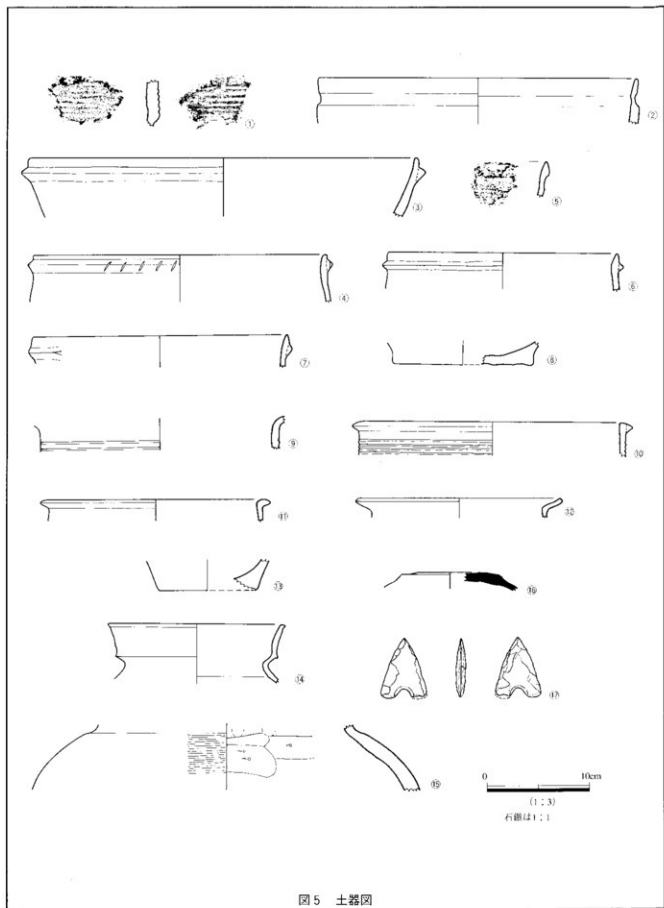


图5 土器图

2 出土遺物 (観察表、土器番号は分布図、実測図、図版と一致)

| 土器番号 | 取上番号 | 器種 | 法量 (cm) | 特徴 |
|------|------|---------|----------------------|---|
| 1 | 14 | 縄文土器 不明 | | 体部破片。内外面に貝殻条痕。 |
| 2 | 1 | 鉢 | 復元口径 25.0 | 口縁部破片。 調整不明。 |
| 3 | 7 | 浅鉢 | 復元口径 30.6 | 口縁部～体部破片。口縁端部に突帯を貼り付ける。 外面調整不明。内面ナデ。 |
| 4 | 5 | 深鉢 | 復元口径 23.0 | 口縁部～肩部破片。口縁端部の下に刻み目突帯を貼り付ける。 調整不明。 |
| 5 | 34 | 鉢 | | 口縁部破片。口縁端部の下に刻み目突帯を貼り付ける。 外面ナデ。内面調整不明。 |
| 6 | 66 | 深鉢 | 復元口径 20.0 | 口縁部破片。口縁端部に突帯を貼り付ける。 調整不明。 |
| 7 | 9 | 鉢 | 復元口径 20.0 | 口縁部破片。口縁端部に突帯を貼り付ける。 外面調整不明。内面ナデ。 |
| 8 | 65 | 底部 | 復元口径 11.0 | 平底の破片。 内外面ナデ。 |
| 9 | 5 | 弥生土器 甕 | | 口縁部～頸部の破片。頸部に2条の沈線がみられる。 調整不明。 |
| 10 | 35 | 甕 | 復元口径 20.0 | 口縁部～頸部の破片。口縁部は逆L字状で頸部に4条の沈線がみられる。内外面ナデ。 |
| 11 | 65 | 甕 | 復元口径 16.0 | 口縁部～頸部の破片。逆L字状の口縁部。 内外面ナデ。 |
| 12 | 50 | 甕 | 復元口径 16.0 | 口縁部破片。 内外面ナデ。 |
| 13 | 35 | 底部 | 復元底径 8.0 | 平底の破片。 調整不明。 |
| 14 | 17 | 土師器 甕 | 復元口径 13.6 | 口縁部～頸部の破片。複合口縁で肩部は平坦でわずかに外方へ延びる。口縁部内外面横ナデ。内面頸部以下削り。 |
| 15 | 54 | 甕 | | 頸部～肩部破片。 外面肩部ヨコハケ。内面頸部以下削り。 |
| 16 | 66 | 須恵器 杯蓋 | | 天井部の破片。 外面天井部3周以上のヘラ削り。内面ナデ。 |
| 17 | 2 | 石器 石鏃 | 長1.5 幅1.2 厚0.3 | サスカイト製。挟入は逆J字形。側縁部が膨らむ。 |

III まとめ

米子城の本格的な築城は、1590年代に始まるが、そこに至るまでの過程は、文献資料のみならず、考古学的な調査によって明らかになりつつある。特に、中世における大規模な埋立工事の実施が明らかになったことは、その最たるものである。また、絵図にはない遺構が発見されるなど、ますます考古学的な調査の必要性が高まっている。今回の調査では、残念ながら江戸時代のものは確認できなかったが、小規模な発掘調査の積み重ねが、今まで明らかにされていない米子城跡の姿を浮き彫りにしていくものであり、非常に重要なことであると考えられる。



共同溝調査地完掘状況（北西から）



共同溝調査地土層断面図（北西から）



土器出土状況



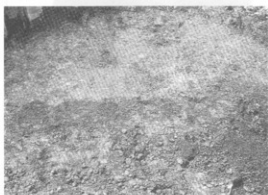
土器（網文土器）出土状況



土器（土師器）出土状況



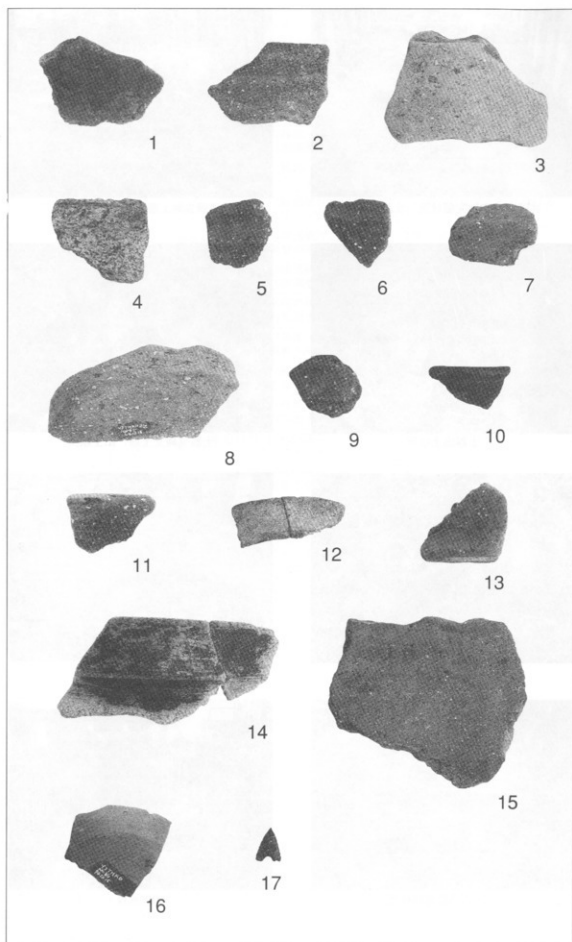
共同溝調査地中央付近



共同溝調査地病棟側



調査風景



米子城跡 5

鳥取大学医学部附属病院モニター、防火水槽、共同溝工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

鳥取県米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

〒683 米子市中町20 山陰歴史館内

TEL・FAX 0859-22-7209